

中女女女中高
雲家実高併八

同窓会会報

発行所/〒049-3111
北海道二海郡八雲町住初町88
北海道八雲高等学校 同窓会
TEL(0137)63-2105 FAX(0137)63-2106
会長 小林 信雄
副会長 小林 石男
編集委員長/ 組織・広報部理事
印刷所/ (有)三和印刷
〒040-0061
北海道函館市海岸町8-11
TEL(0138)45-0845 FAX(0138)43-3594

本会は会員相互の親睦を図り、母校の教育の振興に寄与することを目的とする。
(同窓会規約第3条)

思いつくまに



北海道八雲高等学校
同窓会会長 小林 信雄

令和八年同窓生の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また平素より同窓生皆さま、ならびに関係者の皆さまには母校の教育活動や同窓会の事業に深いご理解とご協力をいただき、心からお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますとさまざまな節目の年であったと思います。まず、昭和の年号が始まってから百年という大きな節目を迎え、また戦後八十年を迎えた年でもありました。八雲町においても平成十七年、旧熊石町と合併してから二十周年を迎え、十月五日には盛大に記念式典を行いました。合併にかかわった一人として感慨深く参加させていただきました。昭和三十二年、昭和の大合併があり、八雲町と旧落部村が合併し二十数

年後落部地域から町長が誕生しました。そして昨年十月合併二十年後、熊石地域からの町長も誕生しました。考えてみますと合併しても心一つになるには長い年月がかかることを痛感したところです。平成二十七年、選挙年齢が十八歳に引き下げられ、これによって高校生も選挙権を有することになり、若年層の意見がより政治に反映される事が期待されました。しかし今回の町長、町議選挙の投票率を見ましても高校生を含む十代の投票率は三十三%程度と低いものであり、二十代も三十九%と低く、これからの新しい時代を作る若者のもっと積極的な参加を強く望むところであります。

話は変わりますが、本校の同窓会の歴史を振り返ってみますと、大正十二年に本校が開校され、その後同窓会ができた

は昭和三年のようであり、以後八雲を本部に、函館支部、札幌支部、森支部、関東支部、長万部支部ができた。同窓会役員の高齢化と共に活動も低下してきています。今後同窓会活動の在り方も

再考の時代に来ています。終わりになりますが、同窓生の皆さまのますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げますとともに更なるご協力をお願い申し上げます。

CS元年と地域とともに



北海道八雲高等学校長 円山 健一

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

を残しています。学校行事も生徒会執行部を中心に、七月には第七十六回遊楽部祭を盛大に催したところです。

令和七年度は、一年生六十二名が入学し、全校生徒百八十名でスタートしました。生徒一人ひとりが目標を掲げ、落ち着いた学校生活を送っています。部活動でも、陸上競技部、ソフトテニス部、吹奏楽局、美術部が全道大会に駒を進めるなど、少ない人数ながらも実績

さて、本年度、学校運営協議会を設置したコミュニティスクールとして新たに発足しました。今までも同窓会の皆さまや地域の皆さまの多大なるご支援を受け、教育活動を進めてまいりましたが、今後は、学校運営協議会を中心として、これまで以上に地域の皆さまに学校運営に参画していただき、八雲ならではの

学びを確立し、魅力ある地域の学校として存続を図っていく所存です。詳しくは、学校ウェブページに学校運営協議会の記録や通信を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

昨年度から始まりました「海外短期研修」も二回目となりました。今年度もオーストラリアのブリスベンを研修地として、二年生二名が十二月二十日から三十日までの十一日間、ホームステイを中心とした研修を実施しました。このような機会を与えてくださった同窓会の皆さまに厚くお礼申し上げます。なお、海外短期研修報告会を二月二日に実施しますので、本校にお越しいただき、代表生徒の発表をご覧いただけたら幸いです。

結びになりますが、これからも、同窓会の皆さまとしっかりと連携し、生徒一人ひとりに応じた、きめ細かい、質の高い、魅力ある学校づくりを推進して参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

学校では今



入学式



林業体験



合同企業説明会



町内清掃ボランティア



遊樂部祭



インターンシップ



体育大会



上智大学交流事業

🌀 陸上部 (関谷悠暉君) へ棒高跳びの棒を寄贈 🌀

令和7年、陸上棒高跳びで全道優勝・インターハイに出場した、2年生関谷悠暉君を激励し記録更新を期待して、同窓会・PTA・八雲陸協が一体となり、町内有志の協賛をいただき、10月9日棒高跳び用の棒を寄贈しました。令和8年度の各種大会での記録更新と上位入賞を期待しております。

今も健在各期の心

故郷で育ててもらった力を、今の仕事へ



第50期生(平成10年卒業)

中村 綾子

一九九八年に母校を卒業してから、早いもので四半世紀以上が経ちました。現在は八雲町で暮らし、子育てと仕事に追われつつも充実した日々を送っております。こうして同窓会会報を通じて皆さまにご挨拶できることを大変うれしく思います。高校時代、私は美術部に所属し、放課後の部室で仲間と作品づくりで没頭した時間は、今も創作の原点として心に残っています。

卒業後は仙台市のデザイン系専門学校に進学し、その後も含め約十五年間を仙台で過ごしました。田舎を離れたい思いで飛び出したはずが、離れて初めて北海道、そして八雲町の魅力に気づかれました。地域の温かさ、人との距離感、自然がもたらす豊かさ——外で暮らしたからこそ再確認できたものです。さまざまなご縁を経て地元に戻り、グラフィックデザイナーとして起業してから十年が経ちました。現在はちらし・ポスター・パンフレットなどを通じて、地域や企業の魅力を伝える仕事に携われることに大きな誇りを感じています。

また当時の美術部の仲間や有志とともに、年に一度の作品展を続けています。写真、絵画、立体作品と表現はさまざまですが、作品を前に語り合う時間は高校時代の純粋な創作の喜びを思い出させてくれます。世代や環境を超えてつながり続けられる仲間の存在は、私にとってかけがえのない支えです。



展示風景

これからも同窓生として皆さまのご縁を大切にしながら、地域に根ざした仕事・創作活動を続けていきたいと思っております。同窓会の発展と、皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

高校三年間を振り返って



第74期生(令和4年卒業)

有 檜 雄 太

私は八雲高校を卒業してから今年で四年が経ちました。卒業後は、ご縁もあり、八雲町消防本部で働くこととなりました。就職してから四年目になります。数々の経験を職場で積むことができました。江別市にあり、北海道消防学校という、全道各地の消防本部から、配属されて間もない消防士が一人前の消防士になるために約半年間入校し、勉学に励み、消防活動訓練及び寮生活等をする施設があります。その北海道消防学校で私は、過酷な訓練を乗り越え、かけがえない仲間たちと出会い、消防士としてのスキルを向上することができました。また、北海道消防学校を卒業後は、職場に帰還し、火災、救急

しさもそうですが、指導して頂いた顧問の先生、チームメイトと野球が出来ること、集団で行動することの大切さや難しさを学べたことが今の私の仕事をする上での糧となっております。また、部活動を通じて野球の事だけでなく、挨拶をする、感謝をする、謙虚になる等、人としての成長が出来たと感じております。

八雲高校で学んだことは沢山ありますし、今は自分に生かされていると身に染みて感じます。これから私たちの学び舎八雲高校が発展し続けていけるよう卒業生として地域に貢献しながら見守り続けたいと思っております。



令和7年度 新任教職員の紹介

| | | | 【前任校】 | | | | 【前任校】 |
|------|------|--|-------------|----------|-------|--|-----------|
| 上村晴美 | 教頭 | | 北海道七飯高等学校 | 大嶋武史 | 商業 | | 北海道江別高等学校 |
| 古館茂国 | 国語 | | 北海道函館商業高等学校 | 齋藤翔太 | 保健体育 | | 新採用 |
| 吉田崇地 | 地歴公民 | | 市立函館高等学校 | 及川真央 | 地歴公民 | | 新採用 |
| 野呂和代 | 数学 | | 北海道札幌西陵高等学校 | ハシエム・オサマ | 英語 | | ALT |
| 今野重義 | 英語 | | 羽幌町立焼尻小・中学校 | 松本和正 | 環境整備員 | | |
| 橋本諭 | 英語 | | 北海道檜山北高等学校 | | | | |

令和6年度 八雲高等学校教育振興会決算報告書

収入の部

| 科目 | 金額 | 備考 |
|------|---------|--------|
| 繰越金 | 107,945 | |
| 会費収入 | 20,000 | 大口篤志1件 |
| その他 | 17 | 貯金利息 |
| 合計 | 127,962 | |

支出の部

| 科目 | 金額 | 備考 |
|-----|-----|-------|
| 協賛金 | 0 | |
| その他 | 110 | 送金手数料 |
| 合計 | 110 | |

収入 127,962 - 支出 110 = 繰越金127,852

郵便振替口座名 北海道八雲高等学校教育振興会 口座番号 02780-0-108941

令和6年度 八雲町補助金内訳

収入の部

| 科目 | 金額 | 備考 |
|----------|-----------|----|
| 八雲町より補助金 | 3,665,519 | |
| 合計 | 3,665,519 | |

支出の部

| 科目 | 金額 | 備考 |
|--------|-----------|--|
| 通学費助成 | 3,188,399 | 長万部1 森1 熊石9 せたな1 落部13 野田生7 黒岩1 |
| 進路指導 | 228,720 | ベネッセ模試 スタディサプリ (通信教育) |
| 各種検定助成 | 248,400 | 日商簿記・電卓実務 全商簿記 英検 漢検 数検 情報処理 ビジネス文書 ビジネス計算 |
| 合計 | 3,665,519 | |

八雲高等学校教育振興会からのご報告とお願い

八雲高等学校教育振興会は、八雲高等学校生徒への教育支援・教育環境の向上と、保護者の負担軽減を図るため、同窓会が主体となり、八雲町よ

り全面的財政支援を受け設立してから13年が経過しました。

- 活動(支援)内容として
- 通学費の半額補助
- 模擬試験受験料の半額補助(年に1度)
- 準2級以上の各種検定料の半額補助
- 遠方通学者に対する下宿代の補助

●詳細は補助金内訳のとおりです。
少子化が進む中、教育環境を向上させることで、八雲高校進学のリットを町内外にアピールし、百周年記念事業の海外短期研修実施と併せて、八高入学の魅力を訴えてまいりました。現在、在校生は177名です。

補助事業の継続と、教育振興会維持の為、運営費のご支援をお願いいたします。会費は一口千円です。振込先は決算報告書の下部に記載しております。よろしくお願いたします。
(事務局 岡島)

海外研修のご報告

3年B組 谷 天晴



この度、令和6年12月21日～12月31日の期間で、オーストラリア・ブリスベンにて同窓会の方々のご支援をいただき、海外研修に行きまして。

ホストファミリーや現地の高校生と交流したり、海や動物園・観光地に行きました。海外で普段と違った食や生活に触れ、初めて会う人と交流し、とても貴重な経験ができました。

今回の研修で、苦手意識を持たずに何事にも積極的に挑戦することの大切さを学びました。ご支援いただいた同窓会の皆さん、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

- 〈関東支部〉 千七〇〇二二二
- 千葉県野田市古布内一五九〇一四
- ☎(〇四)七一六一四五六五
- 支部長 落合 健
- 〈札幌支部〉 千〇六〇八一
- 札幌市手稲区前田一八二一五
- ☎(〇一)六八三一九二五
- 支部長 結城 秀正
- 〈函館支部〉 千〇四一〇八三二
- 函館市神山三丁目四二一八
- ☎(〇一三)八五三一四一〇〇
- 支部長 小林 俊弘

- 〈長万部支部〉 千〇四九三二二
- 山越郡長万部町字中の沢
- ☎(〇一三七)七二二七九二
- 支部長 伊藤 恵造
- 〈本部 事務局〉 千〇四九三二二
- 二海郡八雲町住初町八八
- FAX ☎(〇一三七)六三二二〇五
- ☎(〇一三七)六三二二〇六
- 支部長 岡島 省一
- 本部事務局
- 会 計 竹 突 鎌 粒
- 中 戸 田 見 祐
- み どり 優 海 斗